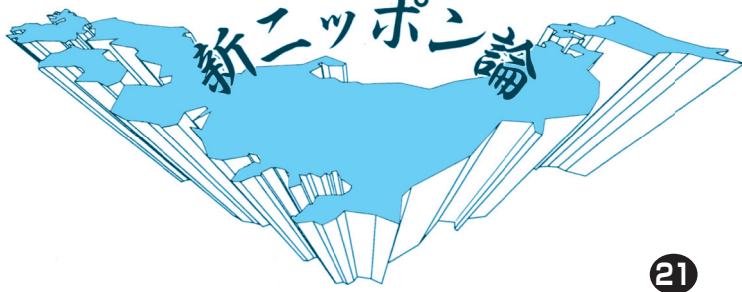


田中康夫の



21

「パフォーマンス」

阪神・淡路大震災から20年目の1月17日、今上天皇・美智子皇后は兵庫県公館で開催の追悼式典に出席後、音楽療法士、園芸療法士の方々と懇談しました。

を地道に続ける人々です。

社会の一隅に居ながら、社会を照らす生活を送る。最澄の至言「一隅を照らす」を改めて想起します。今回も、全国津々浦々で真つ当に働き・学び・暮らす人々を「**勞い**」^{ねがひ}、照らす^{ねがひ}行幸啓でした。

その20年目の追悼式に欠席した宰相は同時間帯、ホテルコンラッド・カイロで開催の日本エジプト経済合同委員会に出席。「ISI」と闘う周辺各国に、総額で2億ドル程度、支援をお約束します」と演説しました。その4カ月前にもニューヨークで、「イスラム国」掃討を目的としたシリア領内での空爆に賛意を表明しています。「首相『空爆でイスラム国壊滅を』 エジプト大統領と会談」と「日本経済新聞」が報じた電子版は現在も閲覧可能です。

続いての訪問先でも同様の発言を行いました。そのヨルダン、アカバ湾に面する僅か12kmの海岸線から更に7kmも奥まった場所に、平時から大量の「水」が必要不可欠な原子力発電所建設を敢行する、地震国にして内陸国。

三番目の訪問国では国立ホロコースト記念館で以下の挨拶を行つ

ています。「深い悲しみを乗り越えて、イスラエルの建国に尽くした人たちを前に、厳かな気持ちになりました」。「特定の民族を差別し、憎悪の対象とする事が、人間をどれほど残酷にするのか、その事を学ぶ事が出来ました」と。

持論たる日本版「積極的平和主義」の思いを吐露したのでしよう。テロリズムもホロコーストも許されざる蛮行。が、同様に戦争も殺人も許されざる愚行。「空爆でイスラム国壊滅を」との明言は、昨夏のガザ侵攻にも「ブーメラン」として戻って来るのです。

国際連合加盟193カ国中、135カ国が承認するパレスチナ自治政府の領内に、最初の10日間で500トン以上のミサイル、航空爆弾を投下とイスラエル当局者が認め、犠牲者の8割近くが民間人と国際連合人道問題調整事務所が発表した、「境界防衛作戦」なるイスラエル国防軍の攻撃です。

而して日本は、ベンヤミン・ネタニヤフ首相が来日し、昨年5月12日に署名した「共同声明」で、サイバー兵器、無人航空機(UAV)等の高度なノウハウ技術をイスラエルから導入する「準同盟国

関係」へと踏み出しています。拉致も許されざる悪行。然るに

シリア、イラク両政府が統治し得なかつた辺界を占拠した「イスラム国」は今やヨルダンと同等の面積を擁し、600万人近い民間人が居住。「空爆でイスラム国壊滅を」の発言は、ガザ地区に暮らすパレスチナ人への「積極的戦争主義」と同義と中東で「異訳」された蓋然性は極めて高いのです。

にも拘らず極東の「日出ずる国」では、「動画、合成じゃないか」と防衛副大臣が発言し、画像解析専門家と称する人物がテレビや新聞に登場する始末。鳴り物入りで誕生した筈の国家安全保障会議が開催されたのは、当初期限の72時間が切れる2時間前でした。

何故か日本では「パフォーマンス」は、奇を衒った実体の伴わぬ行為を指す単語。が、本来は、優れた性能や効果を評価する際に用いる表現です。「満州事変に始まるこの戦争の歴史を十分に学び」と新年に感懐を述べた天皇の神戸での當為、中東での首相の當為、そのどちらが戦後70年目の日本に相応しきパフォーマンスとして歴史に刻まれるのでしょうか。

★次号の2月号の発行日は2月27日(第4金曜日)です。